

序

『脳神経ペディア』は、神経系のマクロスコピック（巨視的）からメゾスコピック（中間的）なレベルでの神経解剖学テキストをめざして出版した。その基となり契機となったのが、北海道大学医学部医学科で現在使用している神経解剖学の講義テキストである。これに加えて本書は、医学生の神経解剖学の履修だけでなく、この科目に続く神経生理学・神経薬理学などの基礎科目や、精神科学・神経内科学・脳神経外科学・放射線診断学などの臨床科目を学ぶ際に振り返って活用でき、さらに神経解剖学の基礎を学ぼうとする生命科学・医学分野の大学院生・若手研究者などの学習書にもなるようにと考えて作成した。

第I部では、中枢神経系と末梢神経系の各部の解剖学的構成とその主な機能についてまとめた。第II部では感覚系と運動系のシステムについて概説した。第I部が神経解剖学の横糸とすれば、第II部はそれらの機能を紡いだ縦糸である。さらに、MRI画像を使ってマクロスコピックな脳の構造的理解の一助となるように、最後に第III部を配した。

本書は、北海道大学名誉教授である井上芳郎先生（1978～2005年 本学医学部解剖学第一講座教授）が、「統合・基礎神経学」の講義テキストとして長年履修学生に配布してきたものが土台となっている。私がこの科目担当を引き継いでから、井上先生のマクロスコピックな神経解剖学の内容に、神経核の機能と投射関係に関するメゾスコピックな情報やニューロンやシナプスに関するミクロスコピック（微視的）な内容、さらにMRI画像を加えて完成させたものである。なお、ミクロスコピックな内容については拙著『みる見るわかる脳・神経科学入門講座 改訂版 前編・後編』（羊土社）で解説しているので割愛した。興味のある方はそちらも参照してほしい。

本書で学びを深めた1人でも多くの読者が、未来の『脳神経ペディア』に新たな1ページを加えてくれることを心から願っている。

2017年7月

渡辺雅彦



1993年当時の北大・解剖学第一講座の教室員

前列左から2人目が井上教授（当時53歳）、3人目が筆者（当時34歳、助教授）